

2024_0301「小さな潮だまりの生き物たち（写真）」日々の理科 3494号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

3月下旬に予定されている、藤沢市の中学校の「江の島野外活動」の2回目の下見に行ってきました。磯の生き物の様子と、地層の露頭の詳細、順路やトイレの場所、そして何よりも生徒さんたちの安全な活動の確認をする為です。

最初に行ったのは、江の島の南東に位置する「海食台」です。海食台は土地の隆起や波による浸食で作られた海辺の平らな地形です。江の島の海食台は、満潮時には海面下になり、干潮時には海面上に姿を現す特徴があります。これは磯の生物を観察するには最適の環境です。3月下旬の実施当日は、「潮が引く時間帯～最干潮の時刻」にかけて磯に下ります。下見でも同じようなタイミングで観察しました。

海食台上には、大小たくさんの潮だまりが見られました。「潮だまり」というのは、満潮時に岩のすき間や窪みにたまった海水が、潮が引いても残っている、「海水の池」のようなものです。磯の生き物の観察は、この潮だまりが重要なのです。10メートルを超えるような大きなものもありますが、中には直径10cm程度の小さなものもたくさんあります。そんな小さな潮だまりにも、カサガイの仲間、ヒザラガイの仲間、ヨコエビの仲間、ヤドカリ、ヨロイイソギンチャク、小さなアメフラシなど、たくさんの生き物が見られ、いつまで見ても飽きませんでした。

(2024年2月下旬／神奈川県藤沢市・江の島南東海食台)

